

先日は、お忙しい中 見学を受け入れて下さってありがとうございました。

見学をさせて頂いた中で、一番印象的に感じたことは、ターミナル患者とご家族との関わりでした。

医師、看護師、ソーシャルワーカーの方が、一緒に訪問診療を行い患者と、ご家族の訴えを傾聴し、対応されていました。

死を直前にした患者の前で、ご家族がスタッフに

「私も母も、もう、思い残すことはありません。在宅で看取るのは不安だけでしたがスタッフの方々に色々なわがまを聞いて頂き、よくしてくださり母も家族も満足しています。自宅で看取ることができ良かったです。」

と涙を流しながらおっしゃっていたことが印象的でした。

死への受容ができたのは、スタッフの方々が、患者とご家族のこころとからだの苦痛を和らげ、ご家族の抱える悩みや不安、揺れ動く気持ちをその都度受容し、その気持ちにほぼ毎日寄り添い接してこられたからだと思いました。

住み慣れた自宅で看取るということは、患者の毎日の変化が分かりやすく見守っているご家族の不安も強くなり、医療者は、いかにその不安を取り除くことができるかが大切だと感じました。

今回の見学で在宅医療での大切な部分を知ることができ、今後の看護に生かしていきたいです。

今回貴重な体験をさせて頂きありがとうございました。

川崎医科大学附属病院 櫻井 亜希子